

知名度向上プロジェクト立ち上げ 全国に『三豊市』を発信

三豊市も合併5年目を迎えております。4年間重点的に実行してきた行財政改革も一定の成果を生み出しました。今後はさまざまなことにチャレンジして、全国的に三豊市の知名度を高めてまいります。

三豊市長 横山 忠 始

効果を生み始めた 行財政改革

去る9月28日、平成21年度末の各地方自治体の将来負担比率が発表されました。

皆様方のご協力のおかげで県内8市のうち、最も低い市となりました。実質公債比率も2位ですが、1位の丸亀市とほぼ同率になってきました。基金(貯金)の増と起債(借金)残高の減少もその成果です。(財政調整基金合併時18億2千万円、21年度末56億4千万円。起債残高合併時306億3千万円、21年度末274億2千万円)職員数も合併時は955名でしたが現在は787名と2割近く削減しました。これは、今後も継続していきます、平成27年度末には病院も含めて688名の職員で行政運営が出来るよう努めてまいります。

今後も地域内分権を進め、5年間毎年20名程度の職員が減少していくことをご理解ください。

市の名前と活動を 外に向かつて発信

三豊市は、知名度と位置の認知度からすると全国的にはゼロに近く、県内でさえ東の方に行けば、旧7町の方が知名度が高いという状況です。市内の企業活動の振興や物産の販路拡大、Uターンの促進、市民の誇りのためにも、あらゆる面で県内はもちろんのこと、全国的に知名度を少しでも高めていくことが必要と考えます。よって今年度からは『三豊市』という名前と活動を外に向かつて発信していくことと、『三豊市知名度向上プロジェクト』を立ち上げました。

第1弾 郷土の歴史文化を 全国にアピール

三豊市知名度向上プロジェクトの第1弾として、三豊市の持つ歴史文化を毎年一つずつ取り上げて、全国にアピールすることにしました。今年度は『平城京と三豊』『坂本竜馬と三豊』をテーマと定めて、平城遷都1300年祭やNHKの龍馬伝と連携しながら知名度を拡大させていきます。



▲『三豊の龍馬伝』講演会に会場は満員に

7月19日に『三豊の龍馬伝』として講演会を開催し、約1,000名の出席者がありました。また、龍馬と海援隊のいる丸衝突事故の発生場所と沈没場所、さらに談判が行われた福山市の鞆の浦へのクルーズツアーを市内旅行会社が企画し、猛暑の残る9月の連休でしたが、予想を大幅に上回る550名の方が鞆の浦に行かれ、また鞆の浦から50名の方が仁尾の八朔祭りを見に来ていただけました。

『平城京と三豊』は、10月24日に「あおによし 奈良の都と 宗吉瓦」という、宗吉瓦窯跡を1300年前の平城京や藤原京という時代の中で考える講演会を開催しました。これも約650名の参加者があり、また

宗吉瓦窯跡では約850名の方が参加されて、盛大に現地イベントが開催されました。宗吉の瓦が供給された藤原京がある奈良県橿原市とは数々の文化交流が行われ、橿原市における三豊市の知名度は大きく向上したと考えております。

第2弾 クルージングサミットで 県境を越えた経済交流

第2弾として、三豊市の風光明媚な瀬戸内海をアピールしていくことと、瀬戸内沿いに公設マリナを持つ岡山県瀬戸内市、広島県福山市、愛媛県新居浜市、香川県高松市、三豊市の5市の市長が集まり、8月20日に仁尾マリナにおいて「中



▲サミット共同宣言のあと固い握手を交わす5市の市長

四国・瀬戸内クルージングサミット」を開催いたしました。このサミットは日経新聞の全国版に報道されたこともあり、反響は大きく、東京や大阪から思わぬ有力な参加者がありました。その皆様とも今後人脈を繋いでいきます。今後はこのように、県境を越えた都市間での経済交流が盛んになると思います。民間に、新しいビジネスチャンスが発生するよう努めてまいります。

第3弾 メールマガジンに 物産販売

第3弾として、三豊市では携帯電話を使ったメールマガジンの会員を募集しております。これは最近、急速に拡大している携帯電話による情報の取得ということに着目し、三豊市の友好会員ということで、メールマガジンの会員を募集する運動を行っております。現在約1,570名の皆様のご参加をいただき、非常に大きな運動になってきております。2,000名を超えた時点で三豊市の物産をこのメールを通じて紹介し、新しい物産販路拡大にチャレンジしていきたいと思っております。

第4弾 二豊ふるさと会を 設立して情報発信

第4弾は、関東・関西で三豊市出身者を中心とした三豊ふるさと会を設立します。11月25日には東京で「関東三豊ふるさと会」を設立しました。その「ふるさと会」を通じて三豊市の情報を発信し、企業誘致、物産販路の拡大、そしてUターン・イターン等、積極的に進めて参ります。皆様方のご親族で関東・関西にお住まいの方がいらっしゃいましたら、ぜひこの「三豊ふるさと会」にご参加いただくと、声をかけていたいただけると思います。



▲10月に陝川郡を訪問。今後の経済的交流について話し合いました

第5弾 世界をマーケットに 経済活動

第5弾として、高瀬町時代から友好交流しております韓国の陝川郡との連携を強めてまいります。今後は世界中の都市間での経済交流が活発化すると考えます。友好都市交流協定を結んでおります陝川郡を一つのモデルとして、三豊市は世界に向けてもその窓口を開いていく活動をしてまいります。

今後、目を開いておくべき将来の方向、つまり次世代の方向は、大きな話に聞こえるかもしれませんが、世界をマーケットに考えることだと思えます。三豊市は日本の地方都市であると同時に、世界の地方都市であるという意識改革です。

私たちは新しい時代に向け、三豊市の知名度を高め、経済活動、物産の販路拡大、人的交流、またUターン・Uターンの促進など、あらゆるものに挑戦していきたいと考えております。皆様方におかれましては、引き続き格段のご指導とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。